

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 7 日現在

機関番号：11301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2012

課題番号：23660032

研究課題名（和文） 終末期ケアに関わる看護師主導型クリニカル・パスの開発

研究課題名（英文） Development of nurse-led clinical path for end-of-life care

研究代表者

宮下 光令 (MIYASHITA MITSUNORI)

東北大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：90301142

研究成果の概要（和文）：本研究では文献レビュー、診療記録レビュー、一般病棟あるいはそれぞれの療養場所におけるパイロットテスト、看護師へのインタビューなどを通して（1）病院バージョン、（2）在宅バージョン、（3）高齢者施設バージョン、（4）小児バージョン、（5）ICUバージョンの看取りのクリニカル・パスの作成、および（6）急性期緩和ケアの症状コントロールと早期退院のクリニカル・パスの作成を行った。

研究成果の概要（英文）：We developed clinical pathways for end-of-life care in hospital setting, home care setting, facility care setting, pediatric setting, and intensive care unit setting thorough literature review, chart review, pilot testing in clinical practice, and interview for nurses.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード： 終末期ケア、がん看護、クリニカル・パス、看護師

1. 研究開始当初の背景

2000年代に英国で Liverpool Care Pathway (LCP) という看取りのクリニカル・パスが作成された。LCP は「初期アセスメント」により看取り期に入ったことによるケアの見

直しを行い、「継続アセスメント」で毎日のケアを系統的に実施・評価し、「死亡処置」で死後の家族への対応を含んだケアを行うという構造を持つ。LCP は患者・家族が安心・安楽に看取り期を過ごすために必要なケア

を確実に受けられることを目標としており、病院版、ホスピス版、在宅版、ナーシングホーム版、小児版などが存在し、集中治療室（ICU）などでも活用されている。

海外でのこのような動向を受け、日本でも2004年から日本語版LCPを作成するプロジェクトが開始された。英国の了承後に順翻訳・逆翻訳などの手順に沿ってLCPは日本語訳され、日本の医療現場の現状に沿って一部の改変後に日本語版LCPが確定し使用マニュアルが作成された。

しかし、日本語版LCPでは翻訳であることの欠点は否めず、日本の文化に沿った、終末期ケアに関わる看護師主導型クリニカル・パスの開発が必要であることが示唆された。

本研究によって終末期ケアに関わるクリニカル・パスが普及され、今後、全国の各種施設で利用実績を積むことにより、看取りのケアの質向上、看護師の記録の負担軽減および患者・家族が安心して看取りに向えるシステムが構築される。また、急性期緩和ケアの症状コントロールと早期退院クリニカル・パスでは、早期の症状コントロールにより退院の早期化と、それに伴う希望した場所での看取りの達成が期待される。

2. 研究の目的

(1) 病院版、(2) 在宅版、(3) 高齢者施設版、(4) 小児版、(5) ICU版の看取りのクリニカル・パスの作成、および(6) 急性期緩和ケアの症状コントロールと早期退院のクリニカル・パスの作成を行う。

3. 研究の方法

本研究では1年目に診療記録類のレビュー等からクリニカル・パスを作成する。1年目～2年目にパイロットテストを実施し、クリティカル・パスを完成させる。

4. 研究成果

平成23年度は英国で開発された看取りのクリニカル・パスであるLCP（Liverpool Care of the Pathway）の日本における実施可能性について検討した。(1) 一般病院に関しては既に確定している日本語版LCP病院バージョンの実際の使用例に対するバリエーション分析を20例に対して実施した。(2) 在宅に関してはLCP在宅バージョンのパイロットスタディを2か所の訪問看護ステーションにおいて終末期がん患者10人に対して試行し、LCP在宅バージョンを確定した。(3) 高齢者施設に関してはLCPの高齢者ケア施設への適用可能性について3か所の高齢者ケア施設で看護師5名、介護職員5名に対して既に死亡した患者へのLCPの後ろ向き適用後にインタビュー調査を行った。(4) 小児バージョンに関しては英国のLCP小児バージョンの日本語訳について検討するとともに、小児専門病院に勤務する看護師3名に対して既に死亡した患者へのLCPの後ろ向き適用後のインタビュー調査を行った。(5) ICUバージョンに関しては英国のLCPのICUバージョンの日本語訳について検討するとともに文献検討によりわが国へ適用する際に修正が必要な点を抽出した。(6) 急性期緩和ケアの症状コントロールと早期退院のクリニカル・パスに関しては緩和ケア病棟から自宅退院した患者117人の診療記録調査を行い、その分析に基づき急性期症状緩和と早期退院パスウェイを試作し、20人の患者を対象にパイロットテストを行った。

平成24年度は昨年度の研究成果に基づきLCP（Liverpool Care Pathway）を修正しわが国における看取りのケアのクリニカル・パスを完成させた。(1) 一般病院に関しては日本語版LCP病院バージョンの有用性を一般病棟で検証する臨床試験を開始し18例のデー

タを集積した。同時に一般病棟における看護師主導型での運用は困難を伴い、他職種との共同の重要性が明らかになった。(2) 在宅に関してはLCP在宅バージョンを訪問看護ステーションにおいて37例に対して運用した。

(3) 高齢者施設に関しては昨年度のLCPの後ろ向き適用後のインタビュー・質問紙調査の結果と研究者・老人看護専門看護師2名からのエキスパートオピニオンにより、LCP高齢者施設バージョンを確定した。(4) 小児に関してはLCP小児バージョン日本語訳を用いて、小児専門病院あるいは小児がんを診療する病院に勤務する看護師21名に対してインタビュー調査を行い、小児バージョンを確定した。(5) ICUに関してはLCP ICUバージョンを翻訳後、日本語版を作成し、実施可能性について5名のICU看護師にインタビュー調査を行い日本語版を確定したが、わが国の現状ではICUバージョンの利用は困難を伴うと予想された。(6) 急性期緩和ケアの症状コントロールと早期退院のクリニカル・パスに関しては緩和ケア病棟においてパイロットスタディを継続して行ったが、調査対象病院の病院移転に伴い進捗が遅れ確定にはいたらなかった。上記の結果より、2年間でLCP病院バージョン、在宅バージョン、高齢者施設バージョン、小児バージョン、ICUバージョンが確定した。しかし、同時にわが国の終末期ケアの現状では看取りのケアのクリニカル・パスを看護師主導で運用することは困難も伴い、それぞれの臨床の場にとってより有効に運用できるように、今後、試用を重ねながら評価を行う必要があることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

1. 市原香織, 宮下光令, 福田かおり, 茅

根義和, 清原恵美, 森田達也, 田村恵子, 葉山有香, 大石ふみ子. 看取りのケアにおける Liverpool Care Pathway 日本語版の意義と導入可能性: 緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディ. Palliat Care Res. 2012; 7(1): 149-162. DOI

<http://dx.doi.org/10.2512/jspm.7.149> (査読有)

2. 宮下光令. 看取りのケアにおけるクリニカルパスの活用. 消化器外科ナーシング 2011; 16: 1-1. DOI なし (査読無)

〔学会発表〕(計4件)

1. 船水裕子, 後藤佳子, 宮下光令, 安藤秀明. 急性期病床における看取りのパス導入. 第50回日本癌治療学会学術集会, 2012 Oct 25, 横浜.
2. 菅野雄介, 原田奈緒美, 伊藤友美, 西出英美, 森岡のぞみ, 田村恵子, 宮下光令. 急性期型緩和ケア病棟から自宅退院した終末期がん患者の平均在院日数に関連する要因. 第17回日本緩和医療学会学術大会, 2012 Jun 22, 神戸.
3. 市原香織, 宮下光令, 福田かおり, 茅根義和, 清原恵美, 森田達也, 田村恵子, 葉山有香, 大石ふみ子. 緩和ケア病棟看護師による Liverpool Care Pathway 日本語版の有用性評価: 緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディからの検討. 第16回日本緩和医療学会学術大会, 2011 Jul 29, 札幌.
4. 市原香織, 宮下光令, 田村恵子, 葉山有香, 大石ふみ子. Liverpool Care Pathway 日本語版による看取りのケアの目標達成状況: 緩和ケア病棟2施設におけるパイロットスタディからの検討.

第 25 回日本がん看護学会学術集会,
2011 Feb 12, 神戸.

[その他]

ホームページ

<http://www.lcp.umin.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

宮下 光令 (MIYASHITA MITSUNORI)
東北大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号 : 90301142

(2) 研究分担者

塩飽 仁 (SHIWKU HITOSHI)
東北大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号 : 50250808

深堀 浩樹 (FUKAHORI HIROKI)
東北大学・大学院医学系研究科・教授
研究者番号 : 30381916

木下 里美 (高野 里美) (KINOSHITA
SATOMI (TAKANO SATOMI))
神奈川県立保健福祉大学・保健福祉学部・
准教授
研究者番号 : 60315702